

第16回沖縄県教育委員会会議（臨時会）

1 日時 平成21年11月9日 15時00分～ 15時55分

2 場所 那覇教育事務所会議室

3 出席者

委員	比嘉 委員 (委員長) 鎌田 委員 安次嶺 委員 中野 委員 金武 委員 (教育長)	(欠席委員) 東 委員
教育	統括監等	教育管理統括監、教育指導統括監、参事
厅	課長及び 班長等	総務課長 財務課長 施設課長 福利課副参事 県立学校教育課長 義務教育課長 保健体育課長 生涯学習振興課長 文化課長 全国高校総体推進課副参事
	職務のため 出席した者	(事務局) 総務課副参事兼総務班班長 総務課教育企画班主任指導主事 総務課総務班主査

4 傍聴した者

記者3人／その他15人

平成21年第16回県教育委員会会議(臨時会)

開会 (15:00)

委員長	<p>それでは、ただいまから平成21年第16回県教育委員会会議・定例会を開催いたします。</p> <p>はじめに会期の決定を行います。本日一日を予定しておりますが、よろしいでしょうか。</p>
各委員	異議なし。
委員長	<p>それでは、このとおり決定します。</p> <p>会議を始める前に一言申し上げたい。傍聴に来ていただいている皆様、本日はお忙しい中、ありがとうございます。いつもは県庁13階の会議室で会議をしていますが、今日は初めての移動教育委員会ということで、那覇教育事務所の会議室に移ってまいりました。廊下には各ブロックの活動の状況を図解化して掲示してあります。今日はその那覇教育事務所管内の市町村の教育委員の皆さんにお集まりいただいておりますが、各市町村の学校と子供たちが少しでも良くなるように、そして課題を共有しながら、解決策を見出しながら、活動していくべきふうに、掲示を見て思いました。そういう意味でも、この那覇教育事務所で第1回の移動教育委員会が開催できることをとても嬉しく思います。</p> <p>初めてのことでもあり、自己点検評価という、昨年からの新しい取り組み、しかも今年は内容を変えましたので、かなり慌しい中で事務局もずいぶん苦労をしました。事務局の努力と、そして急なお呼び立てにもかかわりませず、こうしてお集まりくださいました皆様の御協力のおかげで開催できます。心から感謝申し上げます。</p> <p>ということで、今日の会議を始めてまいりたいと思います。</p> <p>それでは、今日の会議録の署名人は中野委員にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。</p>
中野委員	はい。
委員長	次に教育長報告をお願いします。
教育長	今回は教育長報告はございません。
委員長	<p>それでは、議事に入ります。</p> <p>本日の議題は議案が1件となっております。それでは、議案第1号の説明をお願いします。</p>
総務課長	(議案について説明を行う)
委員長	今年、説明にあったような流れで取り組んできた。市町村の教育委員会も一緒だと思うが、平成19年度地教行法改正を受けて、自己点検評価が義務化され、昨年はどうしていいかわからない試行錯誤の中で行った

	<p>ということもあり、実はその指標等についても、教育委員も見てもよくわからないというものもある中で今年の2月に最初の点検評価が県議会に提出された状況がある。こうしたことから、県民に説明できないような内容になってはいないだろうかということで見直しを行い、かなりいろいろと議論を重ねてきた結果として、今日、議案としてあがっている。このことを踏まえつつ、これから審議していきたい。</p>
中野委員	<p>法改正によって、教育委員会は、毎年、自己の活動状況について点検・評価を行い、議会に対して報告書を提出しなければならないことになっている。沖縄県でも内容をまとめるにあたり、事務局が大変苦労をしたということを強く感じた。事務局はこれだけの仕事を抱えた分だけ仕事が増えたということになる。</p> <p>今回の点検・評価は、事務局が繰り返し点検をし、また、我々教育委員も総合的にチェックし、また学識経験者からの意見もいただきながら、このような案ができておおり、非常に感謝している。</p> <p>今日は市町村の教育委員の皆さんも傍聴いただいているので、後ほど素晴らしいご意見やご指摘等をいただきたいと思います。</p> <p>沖縄県の子ども達はスポーツ面、文化面でもすごく頑張っていると思う。一方、全国学力テストでは平均点が2年連続最下位ということで、少し残念だ。しかし、過去を振り返ってみると、大学入試の共通一次試験が導入されてから平成9年まで、長年最下位が続いていたが、昭和60年頃から平成9年間における全県的な取り組みで行われた学力向上対策の結果、平成10年の大学入試センター試験では、全国得点順位で40位、平成11年には34位と上昇し、最下位を脱出している。（ベネッセの資料）</p> <p>そのように、本県の子ども達は、本気で取り組めば学力は必ず向上するものと信じている。</p> <p>学力向上対策をより効果的に進めるには、県行政はもちろん、地域の方々が強力に取り組むことが最も大きな力となりますので、これからもよろしくお願いします。</p> <p>また、スポーツ面では、藍ちゃん、しのぶさん、彩子さん達の活躍を見ると、精神面も強くなっていると思われる。沖縄県では女性だけの活躍が目立つので、男性も頑張ってほしい。</p> <p>スポーツ面で一番気になっているのが駅伝。どんな指導をすればよくなるのか研究し、実践しなければならないと思う。</p>
安次嶺委員	中野委員が言うように、よくこれだけのものをまとめたなど、事務局は立派な仕事をしたと思う。

	<p>日本全国、北海道から沖縄までそれぞれの県でいろいろな目標を作つて評価している。そうなると、我が沖縄県の子供たちはいったい何が優れていて、何が悪いのかということを見極めなければならない。学力が悪いというのはわかっているが、沖縄の子供たちにも優れたものがあるだろうと思う。沖縄の子供たちにはこのような教育をして、強化して、それこそ全国に誇れるというようなものが出てくるといいと思う。そうなると全国区との比較というのをしなければならない。内部での目標や評価は、それはそれでいいが、それが全国の子供たちの中でどういう位置を占めるかということを認識することは大事だと思う。たとえば主要施策の「自ら学ぶ意欲をはぐくむ学校教育の充実」の中で「世界と手をつなぐグローバルな教育の推進」という施策項目があり、沖縄県・ハワイ州との高校生交流事業等がある。また、主要施策「国際社会に生きる人材及び情報活用能力の育成」もある。このあたりは、沖縄の歴史的、地理的、文化的な背景によるものかと思っている。このように、よそにはなくて、沖縄の子供たちが誇れるもの、これだというものを、常に認識し、教育に生かしていくける方向にもっていかなければいけないと思う。スポーツの面でも優れたものがある。野球、ゴルフ、近年は陸上競技のトラックもすごい。このように目に見えて、子供たちのスポーツの能力も向上している。良い指導者の下で鍛えれば、沖縄の子供たちも今までできなかつたことができるということだと思う。そういう意味では、中央から離れた地方であるという不利な点から学力も低いのかもしれないが、それも鍛えようによつては、特色ある教育を沖縄で行うことができるのではないか。</p> <p>結局、教育の目的というのは、大人になったときに、立派な社会人、つまり、悪いことをしない、健康な体、そして健全な心を持って良き社会人になるということ、それが教育の目的。試験で高得点を取つたからといって、良き社会人になるかどうかわからない。そういう長期的な視点に立つて子供たちを教育する。沖縄の子供たちはどのような大人になるであろうか、という視点で、我々の教育をもっと広い視野から評価したいと思う。県からのいろいろな報告を見て、またやるべきことを確認したい。</p>
鎌田委員	<p>先の二人の委員が事務局の苦労をねぎらつたが、私も同感。この点検・評価については、今日が初めての提示ではなく、これまでも見て検討してきつてるので、今日の提案は承認したいと思う。ただ、これまでの会議の中で言つてきたことではあるが、改めて、点検・評価に対する私個人の意見を交えて述べたい。</p>

	<p>まずひとつは、法制化されたことで、点検・評価を委員の責任の下でしっかりとチェックしていくということになった。私は委員になって2年目だが、意識の中で、去年と今年では大きく変わった。これは責任を伴う議題であるということで、取り組んできた。</p> <p>県の教育施策の体系には、教育の目標に三本柱があり、主要施策が8つあり、それぞれの施策項目があるという構成で、いろいろ具体的に実践化されている。こうした体系を改めて見直して、点検・評価をまとめたが、去年とだいぶスタイルが変わって、数値だけでは評価しづらいものも文章化した部分が多くなって理解しやすくなったという点は、去年と比較して感じる。ただ、P D C Aという過程をどれだけ経てきてこういうまとめになったのかという点で…。指標の結果が出たときに、その結果を読み取り、今年度の課題は何であるのか、この数字をどう理解するのか、そういう課題の分析をする必要があるのではないか。それから、次年度に向けては抽象的な言葉ではなく、具体的な解決策としてのアクションを起こすための、P D C Aのまとめが欲しかったという思いはある。しかし、これまでにかなり変更・修正をしてきているので、平成21年度の沖縄県教育委員会の点検・評価は、了解というところに、私個人として結論に至った。P D C Aの視点のまとめを今後強化したいということ、これが一点。</p> <p>もう一点は、施策の中で県が就学前の幼児教育についてどういう方向性を持っているのか見えにくいということ。教育施策の体系の中に幼児期の教育について独立した項目としてこれまであげられていないのがひとつ的原因ではないかと思われる。教育施策の体系の三本柱の最初の柱に、「幼児児童生徒を育成する」ということが謳われているので、どこかに、課題としてでも、幼児教育が充実していく方向で、県が方向性を決めて、次年度の施策や点検・評価に向けて、この部分は課題としてあるのではないかとこれまでも言っており、今日も言うが、そのことをどこかに付記してもらえればよいと思う。</p>
委員長	<p>各委員から、事務局の苦労に対するねぎらいの言葉があった。今回の点検・評価の作業を通して、新しいことを始めるのは本当にエネルギーの要ることだと感じた。</p> <p>教育施策に基づいて各事業が行われているが、鎌田委員からもあったように、P D C Aマネジメントサイクルの視点で、どのような形で、成果が見出され、課題が抽出され、次への取り組みが行われているのか、その辺をなるべく整理したいということもあり、「学識経験者の知見の活用」で、沖縄瓦斯の湧川社長に入っていたいただいた。また、外部の有識</p>

者だけではなく、教育委員からも、細かく指摘や要求を入れた。そのため、取りまとめ作業にはかなりの労力が必要だったと思う。まだと言えばまだだが、今年の一歩は大きい。現場の声や様々な分野の皆様の声をいかに取り入れてそれを事業に生かしていくのかということを具体化するきっかけが、この点検・評価だったのではないかと思う。

今回はタイムリミットなので、これで承認したいと思うが、多少修正が必要な点があるため、修正をした上で最終的に県議会に提出する形になる。

さて、せっかく那覇教育事務所管内の市町村教育委員の皆さんのがいらっしゃるので、いくつか気になる点をあげたい。

「スクールカウンセラー等配置事業」の中で各地各学校の「課題の共有」をどのようにしていくのかということに取り組んでほしい。カウンセリング手法の共有、あるいは解決したり改善した事例を共有をする等である。素晴らしい能力や経験を持っているベテランカウンセラーと、まだこれからというカウンセラーの能力差をどう埋めていくのかということも課題だ。研修体制の構築等も盛り込んでほしい。

また、あちこち現場を訪ねて思うことは、離島の教員の任期の問題である。場所によっては5年、場所によっては2年というように等級で規則が定められているが、現状での問題や課題を整理してほしい。臨時の任用教員が1年ごとに変わっていくということも含めてだ。今日は南北大東村からもいらっしゃっているが、毎年のように半分以上の教員が異動しなければいけないという島の現状や、初任者研修の後の若い教員と管理職、臨時の任用教員しかいないという現象が起こっている島など、現場の声をいろいろと聞いている。そういう問題をどのようにして解決していくのかという取り組みについても、取り上げてほしい。

安次嶺委員からグローバルな教育について話があったが、これはぜひ取り組んでいきたいところだ。沖縄県・ハワイ州高校生交流事業で動向調査を実施するとされているが、小渕プログラムの留学生の方でも成果を確認しようという動きがあるようなので、ぜひ連携してほしい。

細かくいくつかの点をあげたが、点検・評価は毎年実施される。教育委員会が効果的で実質的な活動をしていくための指標にもなるということを作業を通して改めて実感した。

これをもとに、議論が深まり、より課題が明確になり、改善策が見出され、という方向になるように、また、県、市町村、学校現場との会話がもっと具体的になっていい改善策を求めて協力し合えるような関係づくりに今後取り組んでいきたいという決意を込めて、今日の点検・評価

	について決定をしたいと思うが、よろしいでしょうか。
各委員	はい。
委員長	では、このとおり決定します。 それでは、本日の日程は全て終了しましたので、これで閉会します。 ありがとうございました。